

# 漢詩神奈川

第 28 号

神奈川県漢詩連盟  
事務局

神奈川県海老名市  
浜田町16-9

TEL-FAX  
046-233-7641

発行人 三村公二  
編集人 高津有二

## 神漢連創立十五周年に向けて！

神奈川県漢詩連盟会長 三村公二

そういう観点から、漢詩の基礎能力アップの為に始めた「漢文法基礎講座」は高芝麻子先生のご尽力も有って、多数の参加者が高校時代を思い出しながら熱心に勉強に励んでいる。確かな基礎の上に立って、詩の感性を磨く努力をする事が詩力の向上には欠かせない重要なポイントであり、ひいてはそれが連盟発展の基盤になると信じている。

コロナ禍は秋には少しは落ち着くだろうと思っていたが、収まるどころか第三波襲来で、先行きが見通せない状況である。今後の連盟の活動は、この間に定着した「ZOOM会議」が中心になっていくだろうが、適宜、通常の活動も再開していきたくて計画していた高芝麻子先生の「阿倍仲麻呂と唐詩人」の講演会を実施するかどうか迷いに迷った。一般の方々も参加する講演会なので万全の対策を立てて、神に祈るような気持ちで開催した結果、心配していたような事にはならず、参加者百十名余、その内連盟以外の方が半数以上を占めるという大盛況裡に終える事ができたのは何よりであった。

延期していたが、十一月末に講習を無事終える事ができた。参加者二十五名で、寺小屋方式の指導には苦労したが、この会報に卒業詩の優秀作品を掲載した。僅か五回の講習で詩作初めての方々がこのまでの詩を創るようになったのだから神漢連の指導方針・方法が間違っていないと自信をもって良いと思っ

ている。この大変な時期にもう一つのうれしいニュースは、先に実施された「国民文化祭・みやざき2020、全国漢詩の祭典」で城田六郎舎友が文部科学大臣賞を受賞され、更には、全日本漢詩連盟会長賞に岡田泰男先生が、宮崎県教育委員会教育長賞を住田笛雄舎友が受賞され、秀作賞と入選を合わせると合計八名の多き上がった事である。しかし、この中に連盟若手の受賞者が少なかったことが唯一残念な点で、彼等の今後の一層の奮起を期待したい。

三村公二会長



同様に、四月に予定していた初心者入門講座を十月に

兄の遺産を継承し、更に発展させていく十五周年行事になるかどうか期待しつつ見守っている所である。



# 連盟の行事

神漢連創立十五周年を迎えるにあたって

ー 楽しく盛大に祝おうー

## 創立十五周年記念行事の基本方針

事務局長 高津有二

今年の十月十四日に神漢連は創立十五周年を迎える。この十五年の歩みは、偏に諸先輩方のお力添えによるものであるが、この節目の年を契機に会員の皆さんの力を結集して更なる飛躍、発展を図っていく所存である。

コロナ禍の終息の見通しの不透明な中にあって、何かと活動に制約もあるが、「漢詩を学ぶ、漢詩で遊ぶ」をモットーに、次の点を主眼にして記念行事を実施したいと考えている。

- ①多くの会員がわくわく楽しく参加できる
- ②会員以外の人々との交流の輪を広げる
- ③ネット時代対応でオンライン行事が中心

十五周年記念行事は、日ごろは直接運営に携わっていない若手の会員にも参加頂き、下記の通り、企画委員会を立ち上げ、いろいろな行事を企画しているので、多くの会員に参加して頂きたいと願っている。

## 創立十五周年記念行事の企画

事務局次長 香取和之

十五周年記念行事は、十周年と二十周年の中間であり、行事規模は絞りつつも、ネット機能を活用して効率的運用を図り、また斬新なアイデアで企画することが求められている。この為に、比較的若手の会員(本会報四頁中段の「非運営委員の活躍」に氏名列挙)に役員・運営委員も加わり、「十五周年記念行事企画委員会」を昨年十月に発足させた。

そして、基本方針「漢詩を学ぶ、漢詩で遊ぶ」に基づき活発な討議を行ない、以下の行事候補に絞り込んで具体化の検討に入っている。今後多くの会員からの活発な提言とご支援をお願い致します。

定型行事及び実施決定済み行事

- ・記念式典と総会(本年十月)：ZOOM(概要については本会報八頁参照)を活用して、会場以外にも自宅から参加出来るようにする。

- ・記念講演会(記念式典・総会后)：YouTube配信を活用し、神奈川県在住の非会員及び全国の県連会員がリアルタイムで視聴出来るようにする。

- ・神漢連会員漢詩集の発行：神奈川清韻第三集。

- ・記念出版：現在編集作業が進行中の以下の図書の出版を目指す。「七言絶句ここから一歩・下」、「詩語集(仮称)」。

- ・自詠自書展の開催  
新たな企画行事

- ・在中国の会員(中国人)の漢詩仲間との交流：漢詩集の相互の交換やZOOM方式での漢詩討論を行う。

- ・記念グッズの頒布：漢詩と水墨画付トートバッグ又はエコバッグ、及びクリアファイル。

- ・オンライン吟行会：主催者が主題と韻を各参加者にZOOMで提示し、参加者は七言一句を主催者にオンラインで提出する。主催者は連句(柏梁体)として並べ講評すると共に、参加者とZOOMで交歓する。

- ・自詠自吟大会：各員は自詠自吟の動画をYouTubeにアップする。主催は講評すると共に、投稿者とネットで交流する。

- ・会員以外への漢詩普及活動：漢詩鑑賞に重点を置く。実施項目としては、ア.漢詩講演のYouTube配信。イ.「漢詩の自由訳」コンクール。ウ.「わたしが一番好きな漢詩」アンケート。

その他

- ・会報：定例の七月発行を九月に遅らせ、「十五周年記念行事」の詳細予定などを記した特集号を発行する。

- ・記念行事の資金として、令和三年度会費徴収時に、一口千円の寄付を会員有志にお願いする。

# 十四期初心者入門講座開催 ―新たな仲間が神漢連に入会―

今年度の初心者入門講座は、十一月二十五日をもって全五回の講習を終えました。参加者は二十五名。

募集は新聞六社、ホームページ、既会員の紹介によっておこない、三月開講の予定が、コロナの影響で大幅に遅れて十月になり、応募者の皆さんは開催かどうか心配でした。この間に一旦応募した人から六名ほどの辞退者があったことは残念でした。

講習の内容は、有名な漢詩七首の鑑賞、および七言絶句の実作でした。今年度の特色は、いきなり第一回目から漢詩の規則、詩語集の使い方を教えて実作に進んだことです。つづいて三名の生徒ごとの少人数指導によって、宿題詩の添削を行いました。多くの先生の参加をいただきありがとうございました。

第五回目は卒業詩の発表、添削、講評、優秀賞への粗品（漢詩の本）進呈など、楽しい雰囲気の中で行われました。十四期のサークルの世話人代表は東島正樹さん、世話人として辻寛子さ



講師の話に聞き入る14期生

ん、長谷川昇さんが選ばれました。講師は、香取、牛山の両氏です。（中島龍一）

### 最優秀賞

秋夜獨酌

澗水潺潺秋氣清

桂香浮動酒樽傾

銀河燦燦群星渺

光彩滿杯心自平

澗水潺潺として秋氣清し

桂香浮動酒樽傾く

銀河燦々群星渺たり

光彩杯に満ちて心自ら平かなり

辻寛子

### 優秀賞

偶感

竹林茅屋夜森森

枝葉篩光一徑深

奈此人生塵外境

仲秋月下獨彈琴

竹林の茅屋夜森々

枝葉篩光一徑深し

奈せん此の人生塵外の境

仲秋月下独り琴を弾ず

伊藤三千男

秋昇

窗前獨坐月光幽

白露籬邊搖落秋

燈火玲瓏眠未就

蟲聲哀切轉催愁

窓前独り坐す月光幽なり

白露籬辺揺落の秋

灯火玲瓏眠り未だ就さず

虫声哀切転た愁を催す

長谷川昇

登山樂酒

頂上回頭神女鄉

白雲盡處好風光

昨宵相對圍棋樂

今夕下山俱一觴

頂上頭を回らせば神女の郷

白雲尽くる処風光好し

昨宵相対して棋を囲んで楽しむ

今夕山を下りて一觴を俱にせん

東島正樹

### 初心者入門講座を受講して

辻 寛子

新型コロナウイルス感染対策のため十月に満を持して開講された入門講座。私自身は詩吟を嗜んでおり詩文解釈や時代背景に理解があつたつもりでしたが、詩文の構造を知れば吟詠に一層反映させられると思ひ至り、受講いたしました。韻や平仄という規則の上でリズムを作っている事、知れば知るほど面白く、何十年ぶりに漢字辞典をめくる日々。「黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之を送る」を鑑賞した際には「この詩が素晴らしいのは、『悲・哀』等の言葉を一切使わずに親友との別れを表現している。こういう詩を皆さんに作ってもらいたい！」という三村会長のお言葉が印象的でした。

時には学校の宿題をする娘と肩を並べながら、時には晩酌しながら、漢詩作成の「宿題」に没頭しました。添削してくださいました先生は情景に見合う言葉を丁寧な解説してくださいました。少しづつ研磨して卒業作品に繋げることが出来ました。全五回の講座はあつという間でしたが、これからも「言葉」とじっくり向き合う宝物のような時間を大切に過ごしたいと思ひます。



3名ごとの少人数指導

### 業務執行体制について

事務局長 高津有二

令和二年度は、コロナ禍の中で新年度に入り、神漢連の諸行事も次々と中止、変更を余儀なくされました。本年度は役員改選期ではありませんでしたので、ほぼ全員の方に留任して頂きましたが、教育Gのリーダーを新たに新井治仁さん、本年度に新設した渉外Gのリーダーを牛山知彦さんにお願いたしました。

第十四回初心者入門講座は当初予定よりは、六か月遅れで、十月から十一月にかけて実施し、今年も多くの新入会員を迎えることが出来ました。また、皆さんから要望の多かった漢文法基礎講座は、横浜国大の高芝麻子先生を講師として十月からスタートして前半の三回を実施しました。いずれも詳細を別掲していただきますのでご覧ください。

神漢連の諸行事は月一回の運営委員会で、実施内容を検討、方向付けを行っておりますが、実際の行事の具体的な実施に当たっては、運営委員だけでなく、多くの方々への献身的なご協力によって成り立っています。

ご協力頂いている皆様を以下にご紹介すると共にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。また、役員、運営委員の方々も高齢化してきていますので、若い方々の積極的なご協力を衷心よりお願い申し上げる次第です。

### 非運営委員の活躍

神漢連では、各漢詩サークルの他にも、漢詩鑑賞会・講演会の開催、会報の発行、HP更新、総会開催などは、多くの会員の献身的な努力に支えられている。本稿では、執行理事・運営委員以外の方々について、その尽力に感謝して活動内容を紹介する。

・HP：鈴木栄次(五友) (トップページの水墨画の作画)。

・鑑賞会A：久川憲四郎(好文) (会員管理)、小菅幸枝(好文) (会計)、川久保普美子(詩林) (資料準備)。

・鑑賞会C：久川憲四郎(会員管理・七絶一步下編集)、五嶋美代子(干支) (ZOOMホスト・会場予約・編集)。

・霧笛女子会：小菅幸枝(世話人)、久川愛子(好文) (会計)、芝本信子(三水七步) (会場予約・資料準備)。

・神辞会：蔦清昭(十期) (推敲表・ネット情報)、川久保普美子(詩語分類・登録)。

・自詠自書展：村上良明(八起)、安藤啓子(金星)、嘉嶋宏子(詩林)、妹背真理子(八起)、濱岡日出夫(八起)、石川喜三郎(金星)。

・十五周年記念行事企画委員会：久川憲四郎、高橋純子(三水七步)、妹背真理子、前嶋彩江(岳精)、蔦清昭、高田宗治(十期)、川久保普美子、五嶋美代子、生駒祐子、指方順一郎(令和)。

(香取和之)

### 緊急連絡体制

令和二年は、コロナ禍のために多くの行事を急遽中止せざるを得ませんでした。このような場合、サークルに加入されている方には各サークルの連絡網で連絡が可能ですが、未加入の方への連絡が困難です。そのため会員のメールアドレス保有状況を調査しました。結果は左表のとおり、現在メールで連絡の取れる方は会員二三〇人中一四六人、約六三％であることが判明しました。またサークル未加入の方の保有率は九三人中二五人で、約二七％と低く、現在のところ緊急時の連絡をメールに頼るわけにはいきませんが、今後メールの有効活用を検討してまいります。

(20/11/01現在)	メールあり	メールなし	計
サークル加入	121人	16人	137人
サークル未加入	25	68	93
合計	146	84	230

イベント等を急遽中止せざるを得ない場合には、神漢連のホームページで告知いたします。災害などの場合には、個別の連絡が届かないこともありますので、お手数ですがホームページをご確認ください。よろしくお願いいたします。

(山口幸雄)

### 庚子新年來憂新肺炎漫羨

— 窪寺啓先生玉詩の紹介 —

神漢連では、コロナ禍克服を目指して「令和二年度漢詩大会」を行ない、応募全詩を掲載した漢詩集を昨年七月に発行しました。この度、お手本として、窪寺啓先生から玉詩三首の掲載許可を頂きましたので、熟読玩味願います。

#### 其一 發現

其の一 發現

新衣疫鬼楚人惶

新衣の疫鬼楚人惶れ

罹疾萬餘千百亡

罹疾万余千百亡す

忽及扶桑猖蹶盛

忽ち扶桑に及び猖蹶盛んなり

應危扁鵲缺青囊

応に危ぶむべし扁鵲青囊を欠くを

#### 其二 三月不出門

其の二 三月門を出でず

陽春卅日鎖柴門

陽春卅日柴門を鎖ざしせしは

非做菅公惡疫蕃

菅公に倣うに非ず惡疫蕃し

跼蹐衰翁無檢繫

跼蹐の衰翁檢繫無く

緝書永晝忘塵喧

書を緝き永晝塵喧を忘る

#### 其七 庚子立夏

其の七 庚子立夏

天晴庭院爽風香

天晴れ庭院爽風香り

躑躅將然歸燕翔

躑躅將に然えんとして帰燕翔る

此節最宜專野興

此の節最も宜し野興を専らにするに

今年妖孽塞平常

今年妖孽平常を塞ぐ

(香取和之)

### 漢文法基礎講座開講

会員の皆さんから大変強い要望のあった漢文法基礎講座を横浜国大の高芝麻子先生を講師として、昨年十月から開講しています。

今回は、会員の八十名を超える受講希望者がありましたので、前期、後期に分けることとして、後期は本年の四月から毎月第四土曜日に開講予定です。まだ余席がありますので、希望者は、事務局に申し込んで下さい。

中国から渡来した漢文は、古代日本人の叡知の結集により、返り点が発明され、解読できるようになりました。漢詩を日本語の詩と混同する人がいますが、紛れもない外国語の詩です。講座では、漢詩の用例を中心に、外国語の文法をわかりやすく解説され、毎回楽しい授業が続いています。

私事になりますが、昨年、喜寿を迎えるに当たり、岡山の高校の同窓生仲間と文集を発売することに、高校時代の思い出として「今も活かせる漢文授業」と題して、投稿しました。明治生まれのチョビ髭をはやした先生で、いつも、授業が始まると、黒板に中国故事に関する熟語を十個くらい書いて解説されてきました。いずれ、来世でお会いすることが出来るならば神漢連の活動報告をしたいと思っていますが、「そりゃあ、ぼっこう、ええことをしたなあ」と、岡山弁で、お褒めの言葉をもらうのを楽しみにしています。(高津有二)

### 神辞会 設立三年目の活動

七言絶句はわずか二十八文字ですが、支えている数万字の漢字、数十万語の詩語があります。コンピュータも元になるデータがなければただの箱。この間の我々の作業の大半は、パソコン漢詩を支える韻字表と詩語表のデータ作りでした。初心者用電子詩語集「神辞海」と七絶チェック用のツール「七絶推敲表」の形を整えるのに二年を要しました。定評ある詩語辞典の著者菅原武先生から電子データのご提供を受ける、という嬉しいサプライズもありました。

公開可能なバージョンの完成後、対面で七回のツール講習会を実施しています。コロナ禍中の昨年はオンラインセミナーに切り替え、六回延べ百四十名の方にご参加いただきました。長年育ててきて継続中の電子詩語集A、PC漢詩情報交換会時代にрутツを持つ神辞会書庫、搜韻の使い方、などもご紹介しています。

各ツールの詩語の充実、新しい神辞会書庫の充実、など漢字の海の中で際限のない作業がまだ続きますが、ベースは出来ています。漢詩を楽しみながら未登録の詩語を見つけたら登録する、という活動にご興味をお持ちの方、歓迎いたします。世話役の牛山氏までご一報下さい。(葛清昭)

# 「阿倍仲麻呂と唐詩人」

## 李白・王維と親交があった

### —高芝麻子先生講演会—

令和二年十一月十八日(水)神奈川近代文学館に於いて、横浜国立大学教育学部准教授の高芝麻子先生による「阿倍仲麻呂と唐詩人」という題の講演会が開催された。会場は百十名を越す来場者でコロナ禍の中、間隔をあけての聴講で盛会であった。



高芝麻子先生

巧みなプロジェクター操作と説得力のある高級な解説は、仲麻呂の有名な和歌と生涯、唐に於ける漢詩人との交流、唐の詩人から見た日本、旅人における月と風の道づれなど、

有名な仲麻呂の和歌はいっ作られたか

一、阿倍仲麻呂の歌「古今和歌集」の紹介

天の原 ふりさけ見れば 春日なる

三笠の山にいでし月かも

古今和歌集の解説によると、阿倍仲麻呂が中国での滞在を終えて日本に帰国するため明州というところの海辺まで来て、見送りの人

たちとはなむけの詩の応酬をしていた時にちょうど大空の(天の原)下の海上から月が上ってきたので、遙か日本の三笠の山に出でた月を思い出して詠ったものとある。

二、紀貫之「土佐日記」の紹介

青海原 ふりさけ見れば 春日なる

三笠の山にいでし月かも

土佐日記の中にも右のような仲麻呂の歌が紹介されていて、和歌とともに唐の人にも分かるように奈良を思う漢詩も作ったとある。青海原は紀貫之の写し違いかもしれない。

阿倍仲麻呂の人生と詩人との交流

六九八年?生まれる

七一七年 渡唐

七二五年 任官、以降、左拾遺・左補闕・儀

王友などを歴任

七三三年 玄宗に帰国を願い出るも認められず

七五三年 帰国を認められ、秘書監・衛尉卿

を拝し、出国するも遭難

七五五年 長安に帰還、以降、左散騎恒侍・

安南節度使などを歴任

七七〇年 唐において没す

\*李白の仲麻呂を悼む詩

(仲麻呂の船が難破して死んだという誤報によりつくったもの)

哭晁卿衡 晁卿衡を哭す

日本晁卿辞帝都 日本ちやうけいの晁卿は帝都を辞し

### 送別の詩

(玄宗皇帝が仲麻呂の送別に詠じたもの。)

盛唐・玄宗「送日本使」詩

日下非殊俗 天中嘉会朝

念余懷義遠 衿爾畏途遙

漲海寬秋月 帰帆駛夕颿

因驚彼君子 王化遠昭昭

日下俗を殊にするに非ず 天中会朝を嘉す 余の義を懐ふこと遠なるを念ひ

爾の途を畏ること遙かなるを衿れむ

漲海 秋月 寬にして 帰帆 夕颿 駛し

因りて驚かん彼の君子 王化遠く昭昭たるを

盛唐・王維「送秘書晁監還日本国」詩

秘書晁監の日本国に還るを送る

積水不可極 安知滄海東

九州何処遠 万里若乘空

向国唯看日 帰帆但信風

鰲身映天黑 魚眼射波紅

郷樹扶桑外 主人孤島中

別離方異域 音信若為通

積水極むべからず 安んぞ滄海の東を知らん

九州何れの処か遠き 万里空に乗ずるが若し

征帆一片繞蓬壺 征帆一片蓬壺を繞る  
明月不帰沈碧海 明月は碧海に沈みて帰らず  
白雲愁色滿蒼梧 白雲愁色蒼梧に満つ

国に向かひては唯だ日を看  
 帰帆は但だ風に信するのみ  
 鰲身天に映じて黒く魚眼波を射て紅なり  
 郷樹は扶桑の外 主人は孤島の中  
 別離は方に域を異とす 音信若為ぞ通ぜしむ

阿倍仲麻呂「銜命還国作」詩

命を銜みて国に還るの作

銜命将辞国 非才忝侍臣  
 天中恋明主 海外憶慈親  
 伏奏違金闕 駢驂去玉津  
 蓬萊郷路遠 若木故園林  
 西望懷恩日 東帰感義辰  
 平生一宝剑 留贈結交人

命を銜みて将に国を辞さんとし  
 非才侍臣に忝けなくす

天中明主を恋ひ 海外慈親を憶ふ  
 伏奏金闕を違り 駢驂玉津を去る  
 蓬萊郷路遠く 若木故園の林  
 西望恩を懷ふの日 東帰義に感ずるの辰  
 平生一宝剑 留めて贈らん 結交の人

(玄宗皇帝から日本に使いすると言う形式  
 をとって詠っている。)

唐詩人から見た日本

盛唐・王之涣「登鶴鵲樓」詩

鶴鵲樓に登る

白日依山尽 黄河入海流

欲窮千里目 更上一層樓

白日山に依りて尽き 黄河海に入りて流る  
 千里の目を窮めんと欲し 更に上る一層の樓

◎唐の詩人たちにとって日本という国は、

扶桑・若木の外側(太陽の上る東の海の涯)  
 にあると思っていたようである

・王維「送秘書晁監還日本国」詩(抜粋)

郷樹扶桑外

・劉長卿「同崔載華贈日本聘使」詩(抜粋)

始知更有扶桑東

◎阿倍仲麻呂は扶桑若木は日本に在ると詠う

・阿倍仲麻呂「銜命還国作」詩(抜粋)

蓬萊郷路遠 若木故園林

旅人たちの月と風

古来旅人達が道づれとした月や風は、故郷  
 の山河を照らした月と同じであるとの思い  
 で、月を見ると望郷の念にかられるというの  
 は、中国から来た感覚で、日本の万葉集では  
 月と望郷は結び付かなかつた。

1、李白「峨眉山月歌送蜀僧安入中京」詩

2、盛唐・玄宗「送日本使」詩

3、晚唐・韋莊「送日本国僧敬龍歸」詩

4、盛唐・李白「王昭君二首」其の一

5、盛唐・岑參「磧西頭送李判官入京」詩

6、盛唐・岑參「熱海行送崔侍御還京」詩

7、盛唐・李白「靜夜思」詩

床前看月光 疑是地上霜  
 舉頭望山月 低頭思故郷

床前月光を見る

疑ふらくは是れ地上の霜かと

頭を挙げて山月を望み

頭を低れて故郷を思ふ

今回の高芝先生の講演で、玄宗皇帝に寵用  
 され、残念ながら船の遭難により帰国はかな  
 いませんでした。唐で一生を過ごした阿倍  
 仲麻呂について膨大な資料を基に解説頂き有  
 難うございました。(水城まゆみ)



熱心に聞き入る大勢の来場者



題字と共に

## オンライン受講・活用の薦め GO TO ZOOM

九詩期会 牛山知彦

コロナ禍に見舞われた昨年(令和二年)、われわれ神漢連の活動も影響を受け、集合・対面を要する漢詩鑑賞会やサークル活動、諸会議等は中止された後、なかなか再開することが出来ませんでした。再開する場合にも貸し会議室の定員が半減したりして、会議室確保の担当の方々は予約に大変ご苦労されました。

そのような状況下、三密を避けて会議を開催するツールとして、「ZOOM(ズーム)」が一躍脚光を浴びることとなりました。

いわゆるオンライン会議システムのひとつで、その利用の簡便性からコロナ禍の救世主として世界で利用者が急増したものです。会社等での会議・打合せだけではなく、大学から小学校までの教育現場やセミナー開催にも広く活用され、オンライン飲み会などという新しい利用方法も広まりました。

神漢連でも、漢詩鑑賞会B・Cやいくつかのサークルの例会、神辞会のオンラインセミナー等々が、ZOOMを使って何回も開催されています。

以下簡単に、概要等ご説明致します。

### 《概要》

・複数の人が参加して、双方向で同時に画面

上の相手映像を見ながら会話が出来ます。使うのは、各自のパソコンかタブレット、スマートフォン。

・参加者の一人が会議主催者となります。  
・会議主催者も含めて自宅等からの参加。  
・会議主催者からの開催通知メールに記載されている入室キー部分を押下するだけで、参加可能。(特別なソフト設定や利用者登録等は不要。)

### 《メリット》

・外出しなくても勉強の機会を得られます。  
・仲間の顔を見て声を聴き、会話をすることが出来ます。(外出自粛で知人の顔を見られない生活が続く中で、一番の好評ポイント)  
・時間節約。(会場との移動時間不要)  
・体力不要。(歩かずに参加可能で楽ちん)  
・コスト低減。(貸し会議室料金・交通費不要)  
・会議室確保の労力不要。(会場係不要)

さて、この会報が発行される令和三年初めにはコロナ禍は収まっているでしょうか。また、コロナとは関係なく、一層のデジタル社会がやってくるのも間違いないようです。

この記事を読んでいるあなたも、ZOOMを利用することによって、是非その活動範囲を拡大して勉強の機会を享受してください。

神漢連のZOOM利用の各活動体では、新しい利用希望者に対しては、事前の接続テストに協力してくれますので、安心して連絡してみてください。

## 神漢連詩語集の編集について

会長 三村公二

かねてより漢詩連盟にはどうして基本となる詩語集が無いのだろうかと疑問に思っていたが、この度、次の二つの出来事を契機に、詩語集編集に取り掛かることになった。

その一つは、神辞会が著作権フリーの詩語集が無いと困っていたことへの対策の為であり、もう一つは既存の詩語集には現在の事象を規則に則って詠う為の詩語が少なく、詩作に当たって皆さんが苦労しているのを解消したいという思いからである。神辞会の方は菅原武先生のご厚意により先生のPC資料の活用が許されたことと、国会図書館の江戸・明治の詩語集を直接活用するソフトの開発で一応の解決を見ているが、現状ではPC・スマホに頼らないで詩作をするの方が圧倒的に多いという認識の下に、鋭意編集に取り組んでいる。

メンバーは水城／高津／飯島／香取／新井／久川／三村の七名で、江戸／明治の詩語集をベースにして、現在の事象を詠う為の詩語、国名・都市名、干支・年号、和臭／国字、和漢異義語等といった従来の詩語集にはない新しい企画を盛り込もうと思っている。一同、期待するような詩語集に仕上がるように、又、お金と時間の無駄使いと言われないように引き続き頑張っていく所存である。

# 会員のたより

## 漢詩を身近に感じたい

好文会 埴原かをり

中国文化の一つだからと思いついて、神奈川県漢詩連盟の講習に申込んだ後が大変でした。隔月の七言絶句提出に毎回苦しんでいます。まず漢文の素養が無いこと。常識的な漢詩を知らないこと。漢詩の決まり事がなかなか身につかないこと。そして最近は一つ覚えれば二つ忘れしまうことなど。

漢詩で詠まれるのは男の世界で、官僚の世界、或いは官職にまつわる悲喜こもごも。詩語は男性社会の言葉で、自分の感覚からは遠く離れていて使いにくい。詩語集にあるからと言って選んで平仄だけ合わせて形を作っても、できた詩はまるでサイズの合わない紳士服を着ているようで落ち着かない。

漢詩を作るのは辛いけれども、読み散らかしていくのは楽しい。お気に入りの漢詩も変化して、あんなに好きだった白居易、今はストリーテラーだなと思うだけになってしまった。杜甫の詩は読んでいて辛いばかり。

今は杜牧、李商隱が好きです。陸游、蘇軾、賀知章、王子渙、孟浩然とお気に入りが増えてきました。遡って詩経の桃夭、素朴で力強く、嫁ぐ娘に皆が後押ししている感じが、こちらまで幸せな気持ちにしてくれます。

## 脳の活性化

詩林会 飯田政治

歌が好きな人は多いでしょう。

子供のころ、朝六時半、NHKのラジオから流れた歌。テレビが放映した赤胴鈴之助の主題歌。企業の宣伝歌や演歌歌手の歌。懐かしい歌の数々は脳裏に深く刻み込まれ、ふと、気が付けば、口ずさんでいることがある。数年前、地下鉄に座っていたとき、吊革に掴まっていた七十前後の男性二人が、詩吟について語りだした。「詩吟をやると、英会話がうまくなる」「おお、らしいな」という。私自身も、そう思い始めていた矢先のことだった。

詩吟は聞いて、直ちに真似できない。なぜ。漢詩を英語に翻訳し、朗詠したこともある。更に、漢詩のルールについて、平仄と韻、また、五言絶句、七言絶句と律詩等について、学びながら、考え続けてきた。

カラオケは音符を最重視する。詩吟は日本語のアクセントと語尾の表現力を重視する。従って、日本語固有の周波数が生じる。日本語として聞いているので、違和感が生じないが、成人の頭は真似できない。暫くして、周波数を理解する脳が育ち、英会話も上達する。

教養として、漢詩の自作・自詠、更に言えば、自書も楽しみに加えて、過ごしている。

## 漢字雑感

詩林会 嘉嶋宏子

世界には、紀元前に「四代文明」(エジプト、メソポタミア、インダス、中国)があり、それぞれの文明には「文字の発明」がありました。その中で、「漢字」のみが今日も生き続けています。他の文字は歴史の中で消滅してしまいました。中国の「殷時代」に「甲骨文字」から発展し、数千年の時の中で継承、研鑽され、今の形になった「漢字」の歴史は揺るぎなく、我々日本人は漢字を中心に現代も「言語活動」をしています。「漢字」には書体が種々あり、現代使用している「楷書」は唐時代に完成しています。「漢詩」が「時代と地域、風土、筆者の美意識」の違いにより色々な「詩風」が生まれるように、「書作品」も同じです。

さて、日本の文字文化は情報伝達的手段と芸術性を内包する極めて特異な文化です。文字文化の一つに、毛筆と墨を使用する「書作品」が有り、現在私が勤務している高校の生徒も「書」をとっても愛し真剣に学んでいます。近年、欧米の人々に「漢字」は大変な人気があります。勤務校の生徒はもつと海外に発信すべきと言っています。

最後にもう一つの文字文化に「漢字」を媒体とする「漢詩」があります。努力不足の私はいつも「作詩」に「四苦八苦」しています。今後とも宜しくご指導を頂ければと思います。

出合い

生駒裕子

最近は緩和されたとはいえ、新型コロナウイルスの影響で人にお会いしてお話をしたりするのが難しい今、私は本を通して多くの方々とお会いすることが出来ました。

今年の夏、私はある本がとても読みたくなりました。しかし、その本は二十数年前に出版された本で、どこの本屋さんを探してもありませんでした。図書館ならと思いましたが、地元の図書館にもありませんでした。しかし有難いことに全国の図書館に問い合わせたところのことでした。二週間以上が経ち諦めかけていた頃、ご用意が出来ました、とのご連絡を頂きました。嬉しくてさっそくお借りして一気に読みました。そして読み終わった瞬間、ふとその本がとても綺麗である事に気付きました。二十年以上も前の本なのに、当時はベストセラーできつと多くの人が借りて読んだはずなのに、なんて皆さん大切に本を扱い、丁寧に読んだのだろうと思うと、その本を借りて読んだ皆さんの心が伝わって来る様で、暫時心がジーンとなつてしまいました。読んだ人の心が熱くなるような、出合えて良かったと思ってもらえるような漢詩、そんな漢詩が私も作れたら良いのと思いました。とはいえ、この本、厚木の図書館からお借りしたらしいのですが、川崎の図書館までどうやって運ばれて来たのかと思うと有難くてまたまた心がジーンとしてしまいました。

入会挨拶

堀端保聖

令和元年度に入会、二年が経過し、漢詩作りは三年目に入りました。鬱憤晴らしに始めた詩吟はや十年となりますが、今年度の課題吟に国分青厓先生の「望立山」があります。夢見名山四十年 暮投山麓只雲煙 天明日出驚相揖 玉立群仙在我前

この詩を読んで入会当時の気持ちを思い出しました。詩吟の稽古では、競吟する詩に絞り込む場合が多いので、接する詩はあまり多くはなく、また、詩を朗読することはありましたが、作るまでに至りませんでした。しかし、元来、漢詩が好きでしたので、独学で創作を始め、通信添削をスタートしました。添削は親身丁寧なご指導を頂き、有難く受講しています。が、やはり孤軍奮闘になりがちです。

そんな中、ネットで全日本漢詩連盟、神奈川県漢詩連盟とお会い、更に湯島聖堂斯文会に入会することができました。五里霧中にあつた私は眼前がぱっと開かれた気持ちとなり、登るべき山の姿が少しずつ見えてきました。また、石川忠久先生を始めとする先生方や諸先輩にお目にかかることができ、喜びに堪えません。

今後、時間が許す限り行事に参加するつもりです。引き続きのご指導とご鞭撻を願ひしつつ、皆様のご健勝をお祈りする次第です。

約八十年前の日本獨特の漢詩

興公 國田公義

昭和十四年から同二十年頃まで、韻を踏まない漢詩型の詩が作られ吟じられました。當時は政党も大政翼賛会に纏められ、紀元二千六十年祭が行われた時代（元寇）でした。この様な詩をひろめたのは、角光嘯道（しょうどう）です。淡窓流宜園調宗家で、日大の文学部教授でした。九大の國文科を出た後、大分の広瀬淡窓の塾で漢学を研究した方で、昭和三十九年に全国朗吟大会協会の会長も勤めました。その詩の一例を示します。

瀧山城懐古

角光嘯堂

弦月淡淡沈古風 蟲聲切切悲愁感  
榮古盛衰一場夢 荒城悄然月朧朧  
この詩は今も吟じられています。

韻に拘らない簡易さから、當時の中学生から大学生まで、作つて吟じました。戦時中、私が所属した、人間魚雷の回天隊で戦死した方々の遺書にもたくさんあります。一例を書きますと、

(遺書) 海軍二等兵曹 伊東裕之  
回天決死襲敵艦 突撃功成身碎玉  
滄海星飛千萬里 光芒長照碧波間

この方は盛岡工業から、甲種飛行予科練習生出身の回天志願者でした。沖縄方面で戦死しました。年齢は十九だったと思います。戦後田中首相が、自作の詩を中国首脳に見せて笑われた新聞記事を読んだことがあります。この種の韻を踏まない詩でした。

若い頃と同じように作つたのでしょうか。これを讀まれた方にお願ひします。この様な詩に出会ったら、つまらない詩だと読みすてないで下さい。空襲や訓練、更に戦闘の間の寸暇に作つたものです。心情を惟いやつて読み取って下さい。

# 漢詩と私

古田光子

私が作詩に出会ったのは平成六年でした。八十歳を過ぎた母は耳が遠くなり、さらに物忘れがひどくなって、勤務先から電話連絡することも難しくなりました。片道一時間半以上かかる地に勤めていたので、定年前で退職することを考え始めました。その頃、昔中国語の講座などを受けに通ったお茶ノ水の湯島聖堂の前を通ったところ、四月から新しく、石川忠久先生の『漢詩作法入門』講座が開講されるといふ知らせが出ていたので、月一回、日曜一時間の講座、これなら今でも可能と早速受講の手続きをしました。

この講座で一年間、平仄・韻・語法・対句など作詩の基本を丁寧に教えていただきましたが、これは本当に幸運でした。というのは、こういう講座はこの年だけで、次年度からは添削中心となってしまうからです。

一年後仕事を全くやめてからは、入門講座の『青山教室』に入会し、石川先生にご指導いただいて参りました。これらの会では、先生の出される題によって詠む題詠です。はじめのうちは大変でした。特に『山堂聞鹿』『春風走馬』の題など、鹿の声など聞いたことなく、馬に乗ったこともないので困りました。しか

し慣れてくるにつれて、自由な想像で作ることが面白くなり、視野も広がったように思います。それに詩会でいろいろな面から詠まれた詩を拝見するのは楽しく、勉強になりました。心に残った詩、石川先生のすぐれた添削の詩などを書き留めたノートは、私の大切な宝物です。

神漢連の諸先輩は実にいろいろな詩をお読みになられているようですが、私は唐詩・陶淵明・蘇東坡などの作品を聖堂の講座でほぼそと読んできた位、今は白楽天の講座を受講しているだけです。全く手をつけていない詩集が机の上に積み重なっております。ただ『霧笛』をやらなければならなくなり、女性関係の詩をさがしました。大体は不幸な目に遭った女性の詩が多いのですが、中国の歴史に対する関心も深まりました。特に杜牧の「杜秋娘詩」や蔡琰の「悲憤詩」、又古楽府の「焦仲卿妻」や「陌上桑」などの長い詩を読むことができたのはありがたいことでした。

今中国では、小学生に古典詩を暗誦させているようです。又中国ドラマでもよく漢詩が使われています。気軽に詩を読み、楽しむことができたらと思います。

巴金の小説「家」に、四世同堂の大家族の晦日の様子が描かれています。その中で、若者達が『酒令(酒席でやる遊び)』をする場面があります。いろいろの酒令があるらしいのですが、この時は『飛花』をやるということになりました。花の字の入っている詩句を唱

えるもので、はじめの人が『出門俱是看花人』という、花の字が六番目にあるのでこの人から六番目にあたる人が『春風桃李花開日』といいます。次は花の字が五番目なので、五番目の人が『桃花乱落如紅雨』といい、次は花が二字目なので、二番目にあたる人が『落花時節又逢君』という風にまわしていき、言い間違えたりすると罰杯を飲むという遊び、なんと優雅な遊びでしょうか。この時は十歳未満の二人の子ははずれて、九人での遊びだったようですが、沢山の詩句を覚えていなければならず、又、他の人の言った詩句が正しいかどうか判断しなければならぬ遊び、私達もこのような遊びを楽しむことができたらと思います。



(編集者注)

出門俱是看花人 楊巨源他数名「城東早春」  
 春風桃李花開日 白居易「長恨歌」  
 桃花乱落如紅雨 李賀「楽府雜曲鼓吹曲辭將進酒」  
 落花時節又逢君 杜甫「江南逢李龜年」

# 漢詩のなぞなぞ

九詩期会 山口幸雄

コロナウイルス感染症予防で自宅でごすこと  
の多い昨今、漢詩にまつわる冗談話で頭を  
柔らかくしませんか。

## 問1 漢詩人相撲大会

あるとき、唐の宮中で相撲大会が開かれ、  
李白や杜甫、王維、韓愈、柳宗元、白居易、杜  
牧などの有名な漢詩人が参加しました。  
さて、この大会で最後までトーナメントを  
勝ち残ったのは誰でしょう？

## 問2 勤儉貯蓄のすすめ

南宋の朱熹は、朱子学の創始者として有名  
です。その朱子が、若者に地道な勤儉貯蓄が  
重要なことを教え諭した有名な詩がありま  
す。さて朱子はなんと云っているでしょう？

## 問3 来るものは拒まず

有名な漢詩人になると、あちこちから詩や  
書を書いてくれと頼まれますが、プライドが  
高く、そう簡単には引き受けてくれない人が  
多かった中で、どんなに少額でもとにかくお  
礼さえすれば、気軽に引き受けてくれるとい  
う詩人がいました。さて、誰でしょう？

## 問4 長生きするなら

この人の詩を読むと、十歳長生きできると  
言われている漢詩人は？

## 問5 勝負に生きる李白

李白が大酒飲みだったことは有名ですが、  
それに加えて勝負事も好きだったことは、あ  
まり知られていません。  
博打にのめり込んでいた頃、負けが込んで  
くると李白は掛け金を倍々にしていきました。  
とにかくもう一回ツキがまわってきさえ  
すれば！ という考えです。

この勝負哲学を詠  
んだ有名な句があり  
ます。さてなんと  
いう句でしょう？



李白

## 答1 白居易

行司曰く「ハツキョーイ、ノコッタ！」  
くだらないと言わないで、どうか笑って  
ください。白居易にはこんな詩もあります。

対酒

酒に対す 白居易

蝸牛角上争何事

蝸牛角上 何事をか争う

石火光中寄此身

石火光中 此の身を寄す

随富随貧且歡樂

富に随い貧に随い且く歡樂せん

不開口笑是癡人

口を開いて笑わざるは是癡人

## 答2

少年老いやすく額なりがたし  
一銭のコイン軽んずべからず

## 偶成

朱熹

少年易老学難成

少年老い易く学成り難し

一寸光陰不可輕

一寸の光陰軽んずべからず

未覚池塘春草夢

いまだ覚めず池塘春草の夢

階前梧葉已秋風

階前の梧葉すでに秋風

## 答3 謝靈運(しゃれい、うん！)

謝靈運というのは南朝の宋の大貴族の坊  
ちゃん育ちで不満が多く、常識はずれの行動  
をして、最後は死刑にされたといいますが  
ら、お礼さえすれば「うん！」と聞いてくれた  
というのは、間違いかもしれません。

## 答4 陶淵明

十(とお)延命で、陶淵明。  
どうぞ「十歳長  
生き陶淵明」と覚  
えてください。



陶淵明

## 答5 丁半、いつぺんのツキ!

子夜呉歌

李白

長安一片月

長安一片の月

万户擣衣声

万户衣を擣つ声

秋風吹不尽

秋風吹いて尽きず

総是玉関情

総て是れ玉関の情

何日平胡虜

何れの日にか胡虜を平らげて

良人罷遠征

良人遠征を罷めん

(この詩のもとの題は「四か五か?」と言う  
そうです。)

# 神漢連会員「全国漢詩大会」で大活躍

## 第三十五回国民文化祭・みやざき 2020全国漢詩の祭典

通常のPCで対応できない旧漢字は常用漢字を用いている。書き下し文の旧かな、旧字等は大会作品集通りとする。

### 文部科学大臣賞

酒匂川畔村酒

酒匂川の畔の村酒

城田六郎

嶽麓發源清冽川

嶽麓に源を發す清冽の川

麴塵粳稻僻村傳

麴塵粳稻僻村に伝う

綠醅初熟醞酬味

綠醅初めて熟し醞酬の味

一斗十千何惜錢

一斗十千何ぞ錢を惜しまんや

念願の酒の詩

今年の宮崎大会は自由題ということなので、長年温めてきた詩想を実現する機会ととらえ、応募しました。酒に関する詩を読んでいると、「斗十千」という表現によく出会います。この表現を使って詩を作ってみたくて思っていたところ、昨年三月詩游会の吟行会で酒匂川の畔の瀬戸酒造の見学に参加しました。新酒の試飲をして大変気に入ったので一首作りました。

応募作品はこれに手を入れました。結句はそのままにし、起承転句を作り替えました。起句で水の良さを強調するため富士山を持ち出し、承句は麴や粳米が古くからこの地に伝

### 宮崎県教育委員会教育長賞

賞國寶土器有感

国宝の土器を賞して感有り

住田笛雄

繩文火焰至今遺

繩文の火焰今に至るも遺る

穰禱齋祈憶昔時

穰禱齋祈昔時を憶ふ

一萬年前民族技

一萬年前の民族の技

寰球無類贊神奇

寰球に無類神奇を贊ふ

東京国立博物館で、国宝の火炎土器を觀賞した。我々の知識では、日本の繩文時代は、紀元前三千年、つまり今から五千年前くらいから、ということであったが、その後の発見や時代測定技術の進歩で、この土器は実に一萬年前に作成されたという。しかも、当時には、地球上のどの民族も、このような精巧な土器を造る技術を持った者はなく、地球上に類を見ない優れたものであるという。これを知って、深く感動し、又感激した。

この感動と感激を「有感」として謳いあげた。宮崎県での国民文化祭に応募し、図らずも入賞の榮に浴し、誠に嬉しい限りである。

### 全日本漢詩連盟会長賞

岡田泰男

高千穂峽寫望

高千穂峽寫望

澗水安流湛幽壑

澗水安流して幽壑に湛え

石林相對挾蒼江

石林相對して蒼江を挟む

開關以來遮俗韻

開關以來俗韻を遮る

峽天鳥道峻無雙

峽天鳥道峻無雙

既に全日本漢詩連盟会報に投稿した内容と重複するので併せてご覧下さい。

私は詩吟では師範ですが、稽古で漢詩の解説をする上で知識不足を解消するために始めた漢詩作りも、当時は余技のつもりが何と三十余年も詩語集と格闘し、賞状の筒も紐で束ねて保管する程になりました。

詩吟でお世話になった先生からは美声と華麗な節回しだけでは詩吟屋で、詩吟道に成れと指導され、作詩も添削された作品を浄書して応募するなど、世間は広い坐井觀天から脱出せよと叱咤されたが、今日では何処まで達成出来たか疑わしい。自作の詩を自己陶醉しないで、野趣の有る朗詠を何時かは出来るだろう。

### 秀作賞

大石加代子

池園名月

池園の名月

庭院蕭蕭月上時

庭院蕭々として月上る時

清光皎皎照幽池

清光皎々幽池を照らす

泉聲蟲語西風韻

泉声虫語西風の韻き

獨坐水亭娥影移

独坐の水亭に娥影移る

入選

機場送別

機場送別

上田尤子

送友平明別恨長

友を送れば平明別恨長し

無言握手淚沾裳

言無く手を握りて涙裳を沾す

鴻程萬里青雲志

鴻程万里青雲の志

機影染紅天外翔

機影紅に染まりて天外に翔る

悼藝人志村兄急逝

芸人志村兄の急逝を悼む

何圖癘疫遂無痊

何ぞ図らんや癘疫遂に痊ゆる無く

稀代優倡赴九泉

稀代の優倡 九泉に赴く

諧謔難忘快男子

諧謔忘れ難き快男子

落花飛盡有誰憐

落花飛び尽くし誰有りてか憐れまん

荒村

荒村

高橋純子

雨餘細徑草茫茫

雨余の細徑草茫茫

破屋無人苔壁傍

破屋人無く苔壁の傍

唯看寒鴉啄殘柿

唯だ看る寒鴉の残柿を啄むを

枝頭零露映斜陽

枝頭の零露斜陽に映ず

遊懷古園

懷古園に遊ぶ

横山真吾

觀山雪裏古城頭

山は雪裏に觀る古城の頭

一水龍鱗千曲流

一水龍鱗として千曲は流る

客子眺望宜酌酒

客子眺望として宜しく酒を酌むべし

閑吟絕唱旅情悠

絶唱を閑吟すれば旅情悠かなり

第五回漱石記念漢詩大会・熊本

佳作

横溝喜久男

夏日觀遊

夏日觀遊

睡黃郊里弄微晴

睡黃の郊里微晴を弄し

萬綠田園麥浪平

万緑の田園 麦浪平らかなり

飛燕翩翩掠畦疾

飛燕 翩翩 畦を掠めて疾し

晚風颯颯促歸情

晚風 颯颯 帰情を促す

入選

小嶋明紀子

溪居

溪居

山底溪聲到枕頭

山底の溪声 枕頭に到り

清晨簾外彩雲流

清晨 簾外 彩雲流る

草廬平晝飽黃卷

草廬 平晝 黄卷に飽き

獨下沙洲弄小舟

独り沙洲に下つて小舟を弄す

庚子暮春

庚子暮春

杉森千枝美

暮春窗外百花紅

暮春の窗外 百花紅なるも

疫癘流行疾似風

疫癘の流行 疾きこと風に似たり

今者欲醫無妙藥

今者 医さんと欲するに妙薬無し

神符高挂室西東

神符 高く挂く 室の西東

優秀賞

高橋純子

秋思

秋思

獨坐空房夜欲闌

独り空房に坐すれば夜闌ならんと欲す

西風蕭瑟覺輕寒

西風 蕭瑟として 輕寒を覺ゆ

孤燈瘦盡停針線

孤燈 瘦せ尽して 針線を停む

明月遠郎何處看

明月 遠郎何れの処にか看ん

山花

山花

策筓石路入雲烟

筓を石路に策ぎて雲煙に入る

時聽風聲漱冷泉

時に風声を聴きて冷泉に漱く

莫謂深山青一色

謂ふ莫かれ深山 青一色と

叢中花蕊自爭妍

叢中の花蕊 自ら妍を争ふ

在京思鄉

京に在りて郷を思ふ

杉森千枝美

旅食京華短髮斑

京華に旅食して 短髮斑なり

近來多病不知還

近來多病にして還るを知らず

枯魚濁酒家鄉味

枯魚濁酒は家郷の味

時望片雲歸故山

時に望む 片雲の故山に歸るを

秀作

大谷明史

緬思邊塞

辺塞を緬思す

捲起黃塵十里昏

黄塵を捲き起こして十里昏し

疾驅兵馬向崑崙

疾駆せる兵馬 崑崙に向かふ

沙場今夜無人影

沙場今夜 人影無し

皓皓銀輪照曠原

皓皓たる銀輪 曠原を照らす

半夜蟲聲

半夜の虫声

宇野次郎

丙夜蕭條蟲語寒  
旅亭老叟客衣單  
燈前獨坐歸心切  
落葉敲窗夢不安

丙夜蕭條として虫声寒し  
旅亭の老叟客衣単なり  
灯前独り坐せば帰心切なり  
落葉窓を敲きて夢安からず

小嶋明紀子

山莊茗

山莊茗を嘗む

翠烟爨黹覆山房  
獨坐唯聞煮茗香  
物外閑居得幽趣  
三杯紫碗浥枯腸

翠煙爨黹として山房を覆ふ  
独り坐して惟だ聞く茗を煮るの香  
物外の閑居幽趣を得たり  
三杯の紫碗枯腸を浥す

第二十三回全国ふるさと漢詩コンテスト

優秀賞

高橋純子

夏日江畔

夏日江畔

江邊雨過午風輕  
葭葦萋萋浥露清  
橋上停筇香氣裏  
鐘聲時和晚蛙聲

江辺雨過ぎ午風軽し  
葭葦萋々露に浥ひて清たり  
橋上筇を停む香氣の裏  
鐘声時に和す晚蛙の声

入選

小嶋明紀子

秋晚賦詩

秋晚詩を賦す

獨坐繙書對短檠  
月輪斜照露華清  
苦吟雙淚有誰伴  
徹夜階前蟋蟀聲

獨坐書を繙きて短檠に對す  
月輪斜めに照らして露華清し  
苦吟雙淚誰有りてか伴ふ  
徹夜階前蟋蟀の聲

神奈川県漢詩連盟の会員 石川省吾氏は  
令和二年八月十三日に逝去されました。  
(享年九十歳)

ここに謹んで哀悼の意を表し、  
ご冥福をお祈り申し上げます。

神奈川県漢詩連盟の会員 森本隆泰氏は  
令和二年九月二十四日に逝去されまし  
た。(享年八十六歳)

ここに謹んで哀悼の意を表し、  
ご冥福をお祈り申し上げます。

神奈川県漢詩連盟の会員 中島義和氏は  
令和二年十月四日に逝去されました。  
(享年七十二歳)

ここに謹んで哀悼の意を表し、  
ご冥福をお祈り申し上げます。

令和三年度の全国漢詩大会の予定

奮って応募しよう!

詳細は、グーグル等で各大会を「検索」。  
漢詩応募規定・用紙は、各大会のホーム  
ページからも入手できます。

令和三年度全日本漢詩大会石川大会

九月二十五日(土) 小松市

詩題「園・苑に関するもの」、自由題も可  
応募期間 二月一日～四月三十日

令和三年度全日本漢詩連盟「扶桑風韻」漢詩大会

詩題・応募期間 未定(会報二十九号に  
掲載予定)  
応募資格は全漢連正会員及び準会員

第二十四回全国ふるさと漢詩コンテスト

(多久市主催)  
詩題と応募期間は三月頃決定予定

第六回漱石記念漢詩大会

大会月日未定 熊本市  
自由題

応募期間 四月一日～六月三十日

第十三回諸橋轍次博士記念漢詩大会

応募期間等日程未定 三条市

# 神奈川県漢詩連盟 令和三年の行事予定

## カンレンダーに予定を記入しましょう

### ●初心者入門講座

漢詩の鑑賞と実作(全五回の講義と実習、第十五期生)  
漢詩に関心のあるお友達に声をかけ、推薦して下さい

期 日 ①五月十一日(火) ②五月十八日(火) ③六月一日(火)

④六月十五日(火) ⑤六月二十九日(火)

時 間 午後一時三〇分～四時三〇分

講 師 三村公二会長他 連盟役員

場 所 神奈川近代文学館中会議室

問合せ・受講申込(連盟事務局)

〒243-0412 海老名市浜田町十六ー九 高津有二

TEL/FAX 046-233-7641 Mail yutakatsu626@nifty.com

### ●創立十五周年記念式典・総会・講演会(懇親会は未定)

期 日 十月十四日(木)

時 間 午後一時～四時三〇分(式典、総会、講演会)

場 所 神奈川近代文学館ホール(式典、総会、講演会)

式典・総会 自宅からZOOMでの参加可。

総会議題 令和二年度事業報告、令和三年度活動計画、他

講演会 石川忠久先生、及び市川桃子先生 演題未定(YouTubeリアルタイム

配信を計画中)

参加申込 式典・総会は申込不要。

### ●創立十五周年記念行事

各種計画中であり、詳細は今後神漢連HP及び会報二十九号(九月発行  
予定)に記載予定です。

### ●吟行会

ZOOM方式でのリアルタイム吟行会を秋に計画中

### ●研修会

やり方を含めて検討中

## 編集後記

新型コロナウイルス流行がまだ中国に限定  
されていた頃、日本から贈った支援物資の箱  
に書かれた漢文が、中国の人たちを大いに励  
ましたというニュースがありました。

山川異域 風月同天

豈曰無衣 與子同裳

これを聞いた時、緊急時にこんな対応が出  
来る素養を持った人がいるんだなと感心しつ  
つ、自身の不甲斐なさに大いに反省した記憶  
があります。(残念ながら日本人からではな  
く、日本の華人団体からの支援物資だったと  
のことですが。)

ところで、いつ終わるかもわからず落ち着  
かないこの期間中、皆さんはしっかり漢詩の  
勉強を続けられたでしょうか？

「漢詩鑑賞会が中止になったから」、「サー  
クル例会も再開できないし」等々、サボる理  
由は山ほどありましたね。でも中には、外出  
自粛を味方にして、自分なりに本を読んだり  
研究したりと、独習を極めた方もいらっしや  
るかもしれません。

個人的には、前記の反省を忘れて不勉強を  
続けてしまい、改めて神漢連の教育システム  
の有難さを思い出している次第です。

連盟の各種活動が、いろいろな工夫をしな  
がら早急にフル稼働出来ることを切に願ひ、  
微力ながら努力するばかりです。皆さんも是  
非ご協力ください。  
(牛山知彦)